

高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内  
Tel.34-6550 Fax.34-6877  
メールアドレス●mail@takayama-bunka.org  
ホームページアドレス●http://www.takayama-bunka.org  
(文化会館の催し物案内はこのホームページをご覧ください。)

## 音楽の都ウィーンから 『美しく青きドナウ』をあなたへ ウィーン交響楽団 ヨハン・シュトラウス・アンサンブル

(一社) 高山市文化協会では、一月十三日(祝)に音楽の都ウィーンより「ヨハン・シュトラウス・アンサンブル」を招き、こくふ交流センター・さくらホールにてニューイヤークンサートを開催します。

\*\*\*

十九世紀のウィーンで活躍した作曲家、ヨハン・シュトラウス二世は「ワルツ王」と評されています。生涯の多くをウィーン・ワルツの作曲に捧げ、彼の肖像画はかつて、オーストリア紙幣に描かれたほどで、音楽の都・ウィーンを代表する作曲家です。彼の作曲した「美しく青きドナウ」はオーストリアの第二の国歌



とも呼ばれています。また、彼は作曲家のみならず、演奏家(指揮者・ヴァイオリニスト)としても欧米各地で活躍しました。

十二人編成という彼自身のオリジナル・スタイルのとり、全世界を魅了しているのが、「ウィーン交響楽団 ヨハン・シュトラウス・アンサンブル」です。

一九六五年にウィーン交響楽団の首席メンバーにより結成され、現在もこの名門楽団の優秀なメンバーで編成されています。当初はオーストリア国内を中心に活動していましたが、評判が評判を呼び、ドイツやイタリアなどヨーロッパ全域に活動の場を広げ、七〇年代以降は、米国や南アフリカなどでもツアーを行っています。

この小編成アンサンブルは、ウィーン・ワルツの特徴でもある二拍目と三拍目の微妙な間を、見事に表現してくれます。この絶妙な間を奏でることができるのは、やはりウィーンの演奏家だからではないでしょうか。十二人の

### 平成26年 飾り物展 作品募集

新年恒例の「飾り物展」出品作を募集します。  
◇テーマ 平成26年の干支「午」又は歌会始の御題「静」  
◇資格 市内町内会や同好会、各種団体、市内在住の個人一団体(個人)一点  
◇点数 ※展示数制限のため、先着順で締め切ります  
◇規格 概ね幅100センチ×奥行90センチに収まること  
◇応募 文化会館窓口にて配布の応募用紙に、必要事項を記入の上、12月23日(月)までに、同窓口へ提出又は文化協会へ郵送、FAX。

#### 【飾り物展日程】

◇日時 1月17日(金)～19日(日) 午前9時～午後5時  
(最終日は午後4時迄)

◇会場 文化会館3階講堂・美術工芸室

◇入場無料

#### 【ヤングチャレンジ部門】

高校生以下を対象とした「ヤングチャレンジ部門」を開催します。

身近な道具で造る、若い感性溢れる飾り物を募集します。応募方法は一般と同様ですが、「ヤングチャレンジ部門」と明記してください。詳しくは、当協会へお問い合わせください。

精鋭演奏家が生み出す一つひとつの楽器の音色、重なり織りなすハーモニー、そして張り詰めた空気の中で呼吸感や一体感は、生演奏でしか味わうことができません。  
このアンサンブルと共に、オペラの舞台でも活躍しているソプラノの歌姫ビルジッタ・ヴェッツツルが、弦の音色を消すことなく、気品溢れる透き通った歌声を披露してくれるでしょう。

山形で精力的に活動されているクラシックバレエスクールの生徒の皆さんが共演されます。飛驒の子もたちの演技と本場ウィーンの演奏家の音色とで、どんなステージになるのか楽しみです。  
新春の幕開けとなるこのコンサートでは、ヨハン・シュトラウス二世の曲目を中心に、馴染みのあるプログラムで皆さんをお迎えします。流れるようなウィーン・ワルツ、陽気で心踊るポルカは、肩肘を張らずに楽しむことができ、一年の始まりを喜びに包んでくれます。是非ウィーンの春の香りをご家族、ご友人と一緒にご堪能下さい。

### 「風目(目)」

赤い中橋が工事中で、来春まで通ることが出来ない。白いカバーで隠してあるので見ることもできない。見えなくなると、その真価が分かるものもある。あの中橋は周囲の環境がまた良い。背後に城山をひかえ、下に宮川、横に柳の

東の古い町並みと西の陣屋をつないで、横一本の赤い線は、観光客の目にも実に鮮やかに映る。  
橋は古来、日本でも外国でも、あちこちで小説や映画やTVの舞台になつてきた。橋には出会いがあり、歴史があり、ドラマ性がある。宮川にも数多くの橋があるが、やはり中橋が抜きん出て絵になる。

中橋の赤を引き立たせる色が一番は宮川の澄んだ水だと思ふ。川底の石や魚が透けて見える美しさによって、赤はさらに冴える。大都会の橋の下の水は、ほとんど汚い。  
今年の流行語大賞は「じえじえじえ」だろうか? これを読む頃にはもう決まっている。どっちに転んでも宮川の水は流れている。たぶん来年も。

〈ガンモン毛筆〉

道伝えの日

芭蕉忌句会 ● 入賞句発表

◎一般の部(順不同)

兼題句「菊」または「虫」

小島幸男選

集落に寺一軒や野紺菊

高木みつ江

坊守の葬の煮炊き残る蟲

中嶋 文子

野紺菊古き卒塔婆を横たへる

山腰みかよ

【佳作】

虫すだく遠嶺は雨を移しけり

山本 史子

語り部は吾助と佳助菊の酒

澤木 正子

遠き日の京に遊びし菊の酒

榎谷 孝子

【互選の句】

玉砂利を踏む音軽し菊日和

長瀬理々子

【二席】

菊の香も人もあふれて道の駅

黒木 由美

【三席】

ふることは父母ありてこそち

ちろ鳴く

黒川みつ恵

当季雑詠句

小島幸男選

【特選】

はるか来て飛び付かれたる草

風 谷口ふさ子

休閒地隠して秋の麒麟草

宮本久美子

赤まんま群るる電の火を落とす

山本 史子

【佳作】

遅すぎる学問はなし生身魂

柴田 恭子

生かされて何をせむとや銀河

濃し

黒川みつ恵

喜寿の夫秋耕の鋤買ひ戻る

小林 光代

【互選の句】

新しき山門の朱や秋澄めり

小林 高子

乳足りてねむる赤子や秋高し

下垣内町子

乾きもの秋日もろ共一抱へ

溝端 文子

◎高校生の部(順不同)

小島幸男選

飛騨神岡高等学校

【入賞】

新涼や盲導犬の息しづか

二年 齋藤 慶樹

奥飛騨や虫とり網で星をとる

一年 橋本 勇雅

一粒の涙にレモン一搾り

三年 尾上緋奈子

テスト前参考書たち鴉の費

一年 洞垣 樹生

高山西高等学校

【入賞】

かみかざり君の頭にアキアカ

ネ 二年 杉崎 亮輔

赤とんぼ夕日に向かつてきよ

うなら 一年 白川 実咲

無意識に何か食べてる秋の時

期 二年 中野 航輔

(一社)高山市文化協会加盟団体

文化協会後援 催事のお知らせ

俳誌「飛騨」二百号記念俳句

大会

◇日時 十二月七日(土)

午後七時

◇会場 文化会館二階一五

観覧自由

同時開催 俳聖松尾芭蕉展

◇日時 十二月七日(土)

八日(日) 午前九時～午後

五時(最終日は午後四時迄)

◇会場 文化会館二階展示室

入場無料

創立四十五周年記念 岩島玲

子和装学院 きものの心発表

会

◇日時 十二月十五日(日)

午後一時

◇会場 文化会館小ホール

◇料金 一人五百円

第三十七回「飛騨文芸祭」

作品集「飛騨文藝」

文化会館・煥章館にて

無料配布中



高山市文化芸術鑑賞事業

平成26年 2月19日(水)

午後7時開演 / 午後6時30分開場

丹生川文化ホール

高山市丹生川町町方

主催 高山市・一般社団法人 高山市文化協会

チケット料金 (一般) 3,000円 (メセナメイト会員) 2,500円

全席指定 ジュニア(18才以下) 1,000円

チケット発売 12月7日(土)メセナメイト先行/午前10時～  
一般発売・インターネット受付/午後1時～

プレイガイド 高山市民文化会館 (tel.0577-33-8333)、丹生川文化ホール (tel.0577-78-2468)  
http://www.takayama-bunka.org

○お問合せ先 (一社)高山市文化協会 tel.0577-34-6550 mail@takayama-bunka.org